

課題の概要

○課題名 「しなやか女性医学研究者支援みやこモデル」

○統括責任者 「山岸 久一」

○機関名 「京都府公立大学法人 京都府立医科大学」

(実施予定期間 平成22年度～平成24年度)

機関の現状

京都府立医科大学医学科学生の女性比率はこの12年連続して25%を超えるが、医学科女性教員は全教員の約9%水準に留まる。しかし医学科大学院生の女性比率が25%を維持し総合大学の医学部に比し高率であることから、女性医学研究者育成機関として極めて高い潜在的可能性を有する。

計画構想

本計画の具体的な取組としてはまず専任職員を配置した「男女共同参画推進センター」を学内に設置し、①全学的な女性研究者支援体制として、研究、医療業務のローテーション環境を構築し、時短常勤勤務など柔軟な勤務体制の採用できる研究業務を組織的に整備する。女性医学研究者採用枠を企画する。②病児保育を軸とする子育て支援として、医系単科大学としての強みと機動性を生かした理想的な病児保育室の設置・運営をめざす。将来的には地域を中心に広く病児保育室を開放し地域還流型モデルとしての特性化を図る。産休・育休および子育て中の支援として、研究支援補助者の配置および在宅研究支援を行う。地域連携モデルとして近隣大学からの女性研究者受入れ体制の整備とともに、連携大学の理・工・農・薬の人材の育成に貢献する。

この結果、①多様なキャリアパスの提供により、女性医学研究者数が増大する。②女性医学研究者採用の質的・量的強化を図り、大学等研究機関の幹部候補ともいえる女性医学研究者を育成する（大学教員に占める女性比率の増加）。③柔軟な勤務体系可能な職場形成で女性医学研究者の研究活動の継続を図る。④地域を中心に広く病児保育室を開放し、地域社会にも本学にも双方向的な互惠関係を築く。⑤本学の女性医学研究支援とともに連携大学の理・工・農・薬の研究人材の育成にも貢献する。⑥本先進モデル育成により本邦医学研究における男女共同参画のあり方に改革の機運を与える。⑦国際的に遅れている臨床医学研究強化の国策に対し一つの先進モデルを提供することが期待される。

達成目標(ミッションステートメント)

本計画の達成目標としては、女性医学研究者支援全学体制の構築、すなわち男女共同参画推進センターの設立と運営、研究・医療業務のローテーション環境の構築と臨床研究業務への傾斜配置、そして女性医学研究者採用枠の拡大である。特に現在建築中の大学附属病院内に病児保育室を設置して地域還流型病児保育を軸とする子育て支援を行う。さらに連携7大学からの研究者の積極的受入れによる女性医学研究者の個別支援体制の構築と在宅研究支援、合わせて全学的な女性研究者ネットワークの構築とロールモデルによる支援の連鎖、啓蒙活動強化を図る。